

## 2025 年度 2・3・4 年次アンケート

本学では新年度のオリエンテーション時に、新 2 年次、新 3 年次、新 4 年次を対象とした「教育・学生生活に関するアンケート調査」（以下「在学生アンケート」と表記）を行っている。但し、コロナ禍中であった 2020～2022 年度は、各授業等で実施していた。2023 年度より、オリエンテーション時での実施に戻している。このアンケート調査は、在学生が本学の教育内容や学生生活についてどのような意識を持っているのか、また本学学生の学習実態などを明らかにすることで、今後の教育改善に活かすことを目的としている。本報告書では、主な項目の分析結果を中心に報告する。なお、回答人数が少なくかつ旧課程の専攻である史学専攻（2 名）は、分析の対象から除いた。

調査概要は以下の通りである。

目的：東京女子大学に通っている学生の学習及び大学生活に関する意識・実態調査

方法：Web 調査

対象：東京女子大学に在籍している 2～4 年次学生、2941 名（5 月 1 日時点、休学者を含む）

（うち：2 年次学生 935 名、3 年次学生 987 名、4 年次学生 1019 名）

調査期間：2025 年 3 月 21 日～6 月 12 日

有効回答数：2367 名

（うち：2 年次学生 852 名、3 年次学生 798 名、4 年次学生 717 名）

有効回答回収率：80.5%

（うち：2 年次学生 91.1%、3 年次学生 80.9%、4 年次学生 70.4%）

調査項目：2022 年度までに実施してきた調査結果を踏まえ、「学習」、「学生生活」、「図書館」、「課外・学外の活動」、「その他」などの項目で構成している。

本報告書では、2 年次、3 年次、4 年次などの表記が出てくるが、在学生アンケートは、前年度末～今年度初めに実施しているため、例えば、2 年次の授業に対する満足度は、当該学生が 1 年次であった時の授業の満足度を示す。同様に、3 年次の授業に対する満足度は当該学生が 2 年次であった時の授業の満足度、4 年次の授業に対する満足度は当該学生が 3 年次であった時の授業の満足度のことである。

また、本報告書で用いるデータは全数調査によるものなので有意確率（p 値）は報告せず、平均値・標準偏差および効果量（ $\eta^2$ ）のみを報告する。なお、 $\eta^2$ については、Cohen(1988)の基準 $\eta^2 = .01$  (small)、 $\eta^2 = .06$  (medium)、 $\eta^2 = .14$  (large) を用いた。

なお、参考のため過去 5 年間の回収率（2～4 年次学生全体）を表 1 に示しておく。

表 1 年度別に見た 2～4 年次アンケートの回収率

2020 年度 (Web 調査)	2021 年度	2022 年度 (Web 調査)	2023 年度 (Web 調査)	2024 年度 (Web 調査)	2025 年度 (Web 調査)
70.0%	82.8%	81.5%	82.5%	79.1%	80.5%

(1) 授業に対する満足度について

「授業全般」、「全学共通カリキュラムの科目の授業」、「学科科目（専門）の授業」の3つのカテゴリー別に、過去1年間の学修を通じての授業の満足度を尋ねたところ、表2のような結果となった。「大変満足している」、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の3つを合計した割合が全てで8割を超えていることから、授業に対する満足度は全般的に高いと言える。特に「授業全般」、「学科科目（専門）の授業」では、9割を超えた。

表2 授業に対する満足度

	全く満足 していない	満足 していない	どちらかと 言えば満足 していない	どちらかと 言えば満足 している	満足 している	大変満足 している	履修 していない
	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)	% (n)
授業全般	0.6 (13)	1.4 (31)	6.5 (147)	31.8 (716)	47.6 (1073)	12.2 (275)	
全学共通 カリキュラムの 科目の授業	0.7 (16)	2.3 (51)	6.4 (145)	30.0 (676)	42.1 (950)	16.9 (382)	1.6 (35)
学科科目 (専門)の授業	0.7 (15)	1.6 (37)	5.2 (118)	21.9 (493)	46.2 (1042)	23.9 (539)	0.5 (11)

注：各項目について欠損値（112人）を除いて集計した結果である。

授業に対する満足度を専攻別、学年別に比較するため、まず「大変満足している」=6、「満足している」=5、「どちらかといえば満足している」=4、「どちらかといえば満足していない」=3、「満足していない」=2、「全く満足していない」=1 と点数化し、それぞれの項目の平均値および標準偏差を算出した（表3～表8）。

表3～表5は、専攻別に見た授業に対する満足度の平均値および標準偏差である。全てのカテゴリーにおいて、全ての専攻で授業満足度の平均値が4.0を超えた。効果量は「学科科目（専門）の授業」が他より大きいものの、いずれも小程度で、専攻による大きな違いは見られなかった。

表3 専攻別に見た「授業全般」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.42	0.911	227	$\eta^2 = .036$
哲学	4.55	0.934	88	
日本文学	4.87	0.798	226	
歴史文化	4.75	0.843	227	
国際関係	4.65	0.858	308	
経済学	4.55	0.820	204	
社会学	4.62	0.827	113	
コミュニティ構想	4.58	0.915	116	
心理学	4.69	0.767	200	
コミュニケーション	4.63	0.797	329	
情報数理	4.08	1.133	87	
数学	4.68	0.917	56	
情報理学	4.31	1.019	74	
合計	4.61	0.874	2255	

表4 専攻別に見た「全学共通カリキュラムの科目の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.43	0.993	225	$\eta^2 = .030$
哲学	4.55	0.982	88	
日本文学	4.83	0.855	222	
歴史文化	4.70	0.897	223	
国際関係	4.65	1.056	299	
経済学	4.69	0.903	201	
社会学	4.81	0.819	113	
コミュニティ構想	4.62	0.996	115	
心理学	4.68	0.891	199	
コミュニケーション	4.71	0.878	324	
情報数理	4.07	1.186	86	
数学	4.83	1.004	52	
情報理学	4.36	1.159	73	
合計	4.64	0.964	2220	

表5 専攻別に見た「学科科目（専門）の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.64	1.014	227	$\eta^2 = .053$
哲学	4.97	0.895	87	
日本文学	5.10	0.824	226	
歴史文化	5.01	0.885	227	
国際関係	4.84	0.918	304	
経済学	4.84	0.825	203	
社会学	4.79	0.924	112	
コミュニティ構想	4.76	1.010	116	
心理学	5.06	0.887	200	
コミュニケーション	4.85	0.849	325	
情報数理	4.10	1.321	87	
数学	4.91	0.959	56	
情報理学	4.36	1.080	74	
合計	4.84	0.949	2244	

表6～表8は、学年別に見た授業に対する満足度の平均値および標準偏差である。授業満足度に関する全てのカテゴリーにおいて、4年次生の満足度が最も高くなった。しかし、効果量は「全学共通カリキュラムの科目の授業」が他より僅かに大きいものの、いずれも小程度で、学年による大きな違いは見られなかった。

表6 学年別に見た「授業全般」に対する満足度

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2年次	4.47	0.890	811	$\eta^2 = .034$
3年次	4.54	0.861	757	
4年次	4.85	0.820	687	
合計	4.61	0.874	2255	

表7 学年別に見た「全学共通カリキュラムの科目の授業」に対する満足度

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2年次	4.43	0.991	801	$\eta^2 = .044$
3年次	4.61	0.945	744	
4年次	4.92	0.882	675	
合計	4.64	0.964	2220	

表8 学年別に見た「学科科目（専門）の授業」に対する満足度

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2年次	4.66	0.991	806	$\eta^2 = .036$
3年次	4.80	0.926	753	
4年次	5.09	0.864	685	
合計	4.84	0.949	2244	

次の図1～図3では、授業満足度について、学科別の違いを学年別に示す。すべての項目で2年次より4年次の得点が高い傾向があった。

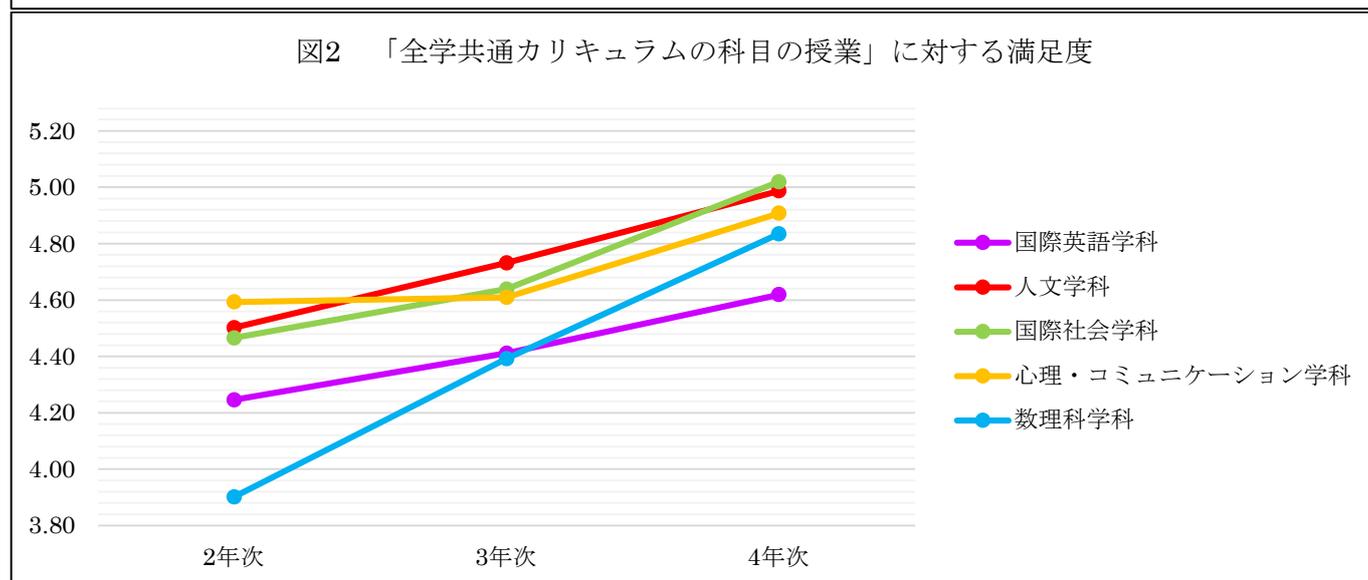
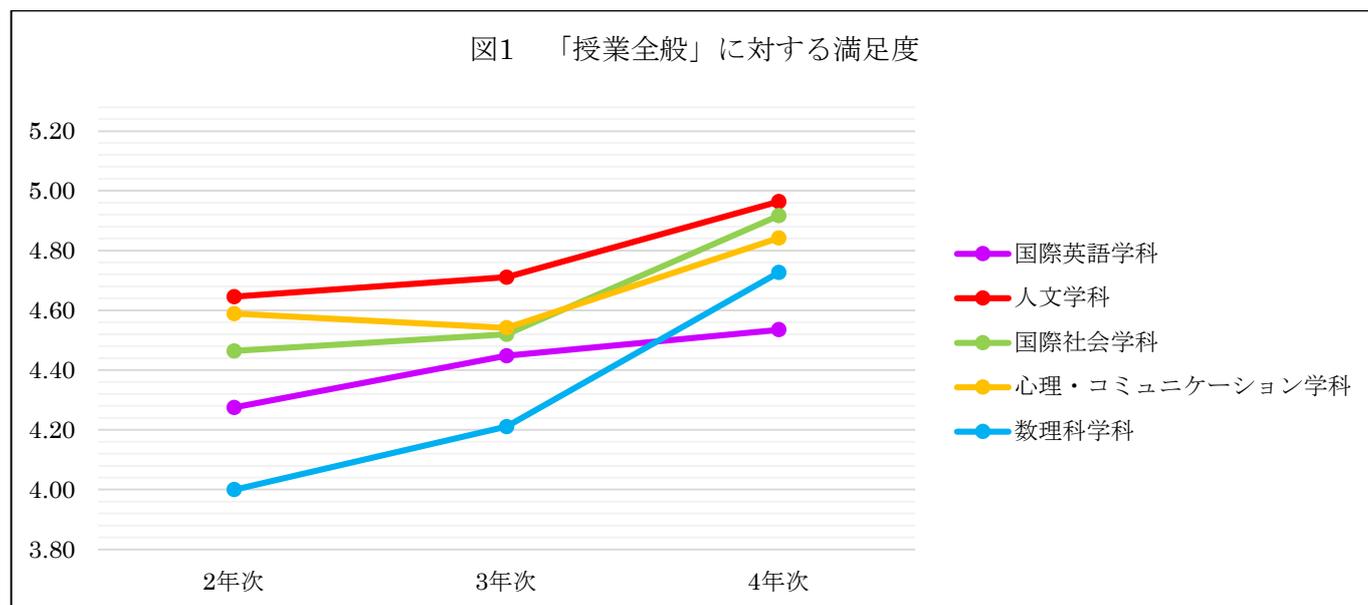
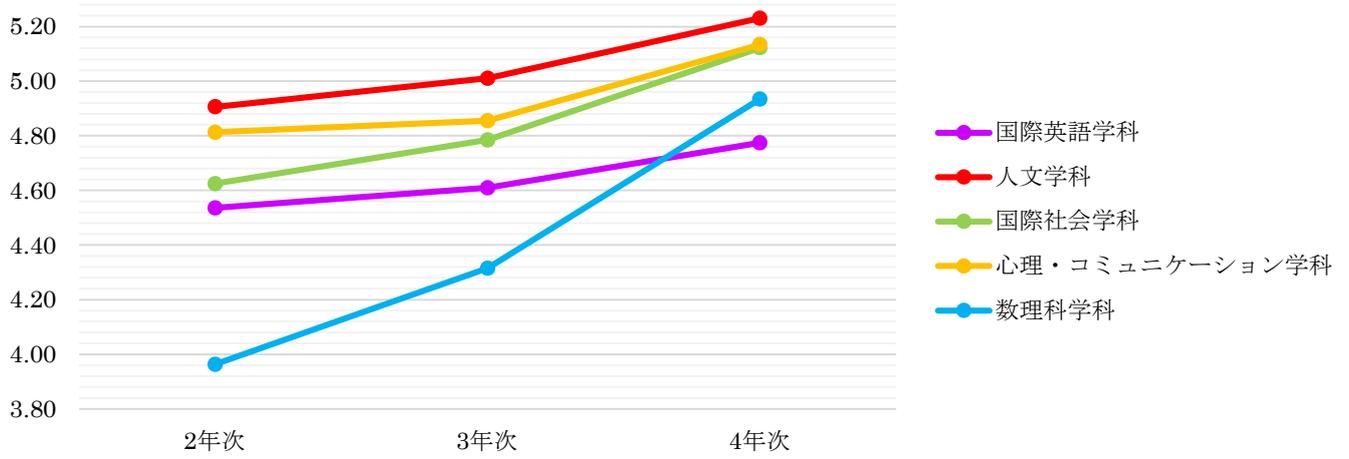


図3 「学科科目（専門）の授業」に対する満足度



(2) 身についたスキルに関する項目の集計・分析結果

「昨年1年間の学びを通じてどのようなスキルを身につけることが出来たと思うか」を調べるため、「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「プレゼンテーションにおいて、効果的に話をする力」、「ディスカッションにおいて、論理的に意見を述べる力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「わかりやすいプレゼンテーション資料を作成する力」、「パソコンで図表を作成する力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」、「グラフや表で示された統計資料を理解する力」の10項目について、「全くそう思わない」(=1)から「非常にそう思う」(=6)の6件法で尋ねた。

その結果が図4である。「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「わかりやすいプレゼンテーション資料を作成する力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」の4項目は、肯定的な回答(「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)が8割を超えた。残りの5項目においても7割を超えており、多くの学生がこれらのスキルを身につけることができたと考えている事が分かった。

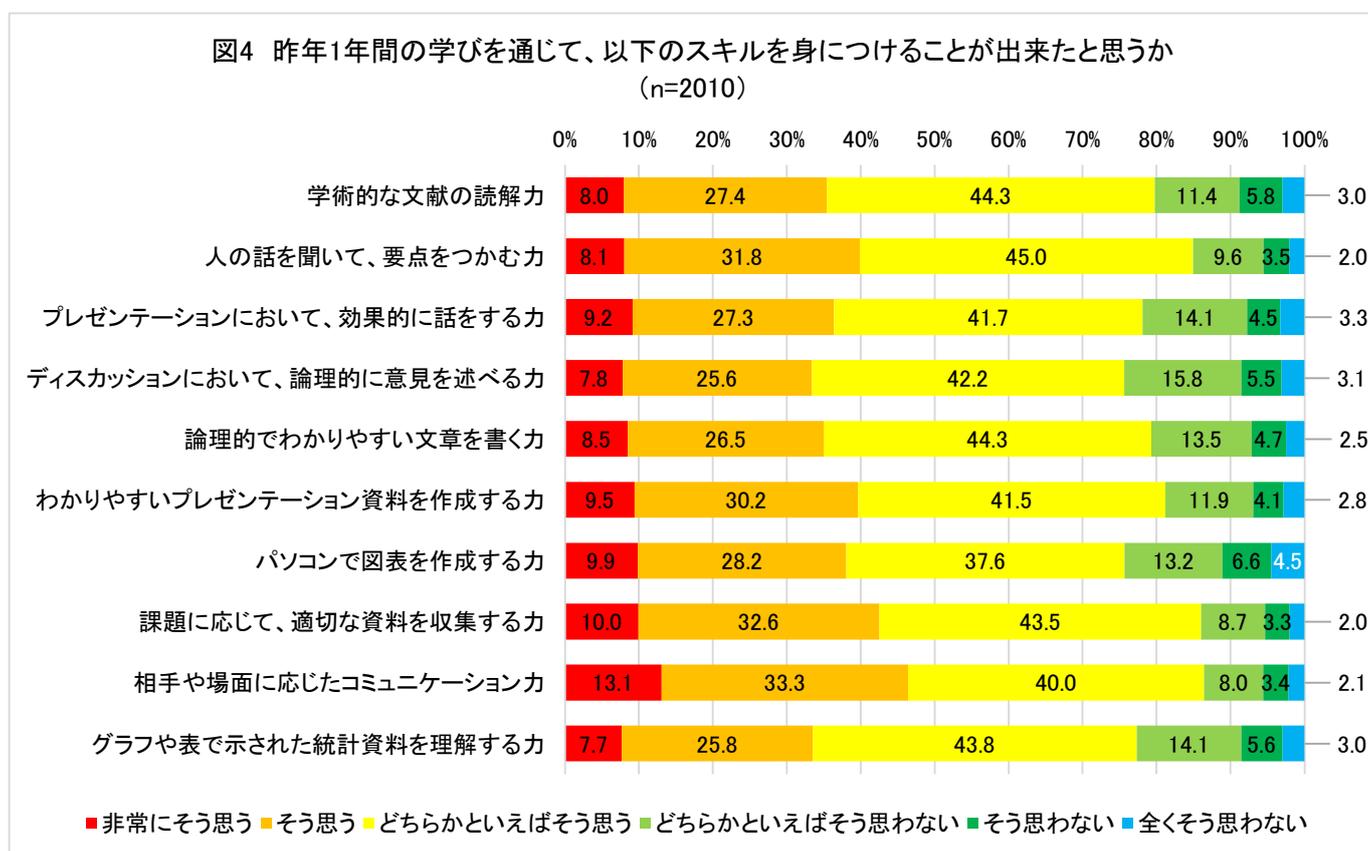


図4に示す10項目について、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「スキル総合得点」(M=4.17、SD=.852、最大=6、最小=1；因子分析で次元性も確認。α=.931)として、以降の分析に使用した。

専攻別にスキル総合得点を見ると（表 9）、平均値が最も高い専攻でM=4.30、最も低い専攻でM=3.74 となった。効果量は小さく（ $\eta^2 = .021$ ）、専攻間におけるスキル総合得点の違いは大きくない。

表 9 専攻別に見た「スキル総合得点」

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.19	0.846	186	$\eta^2 = .021$
哲学	3.93	0.786	78	
日本文学	4.29	0.815	203	
歴史文化	4.12	0.771	204	
国際関係	4.22	0.831	282	
経済学	4.17	0.808	190	
社会学	4.23	0.837	104	
コミュニティ構想	4.30	0.794	104	
心理学	4.22	0.820	182	
コミュニケーション	4.21	0.832	296	
情報数理	3.74	1.182	70	
数学	4.24	0.994	48	
情報理学	3.87	1.066	63	
合計	4.17	0.852	2010	

学年別にスキル総合得点を見ると（表 10）、平均値は 4 年次、3 年次、2 年次の順で高い。効果量は小さく（ $\eta^2 = .008$ ）、学年間における違いは大きくない。

表 10 学年別に見た「スキル総合得点」

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2 年次	4.11	0.827	739	$\eta^2 = .008$
3 年次	4.14	0.832	661	
4 年次	4.29	0.893	610	
合計	4.17	0.852	2010	

(3) 身についた能力に関する項目の集計・分析結果

昨年1年間の学びを通じて、以下の図5に示される14項目の能力を身につけることが出来たと思うかどうかを尋ねた結果を示す。13項目で肯定的な意見が7割を超えた。唯一超えなかった「率先してグループをまとめリードする力」も昨年度と比べると3.5ポイント上昇している。

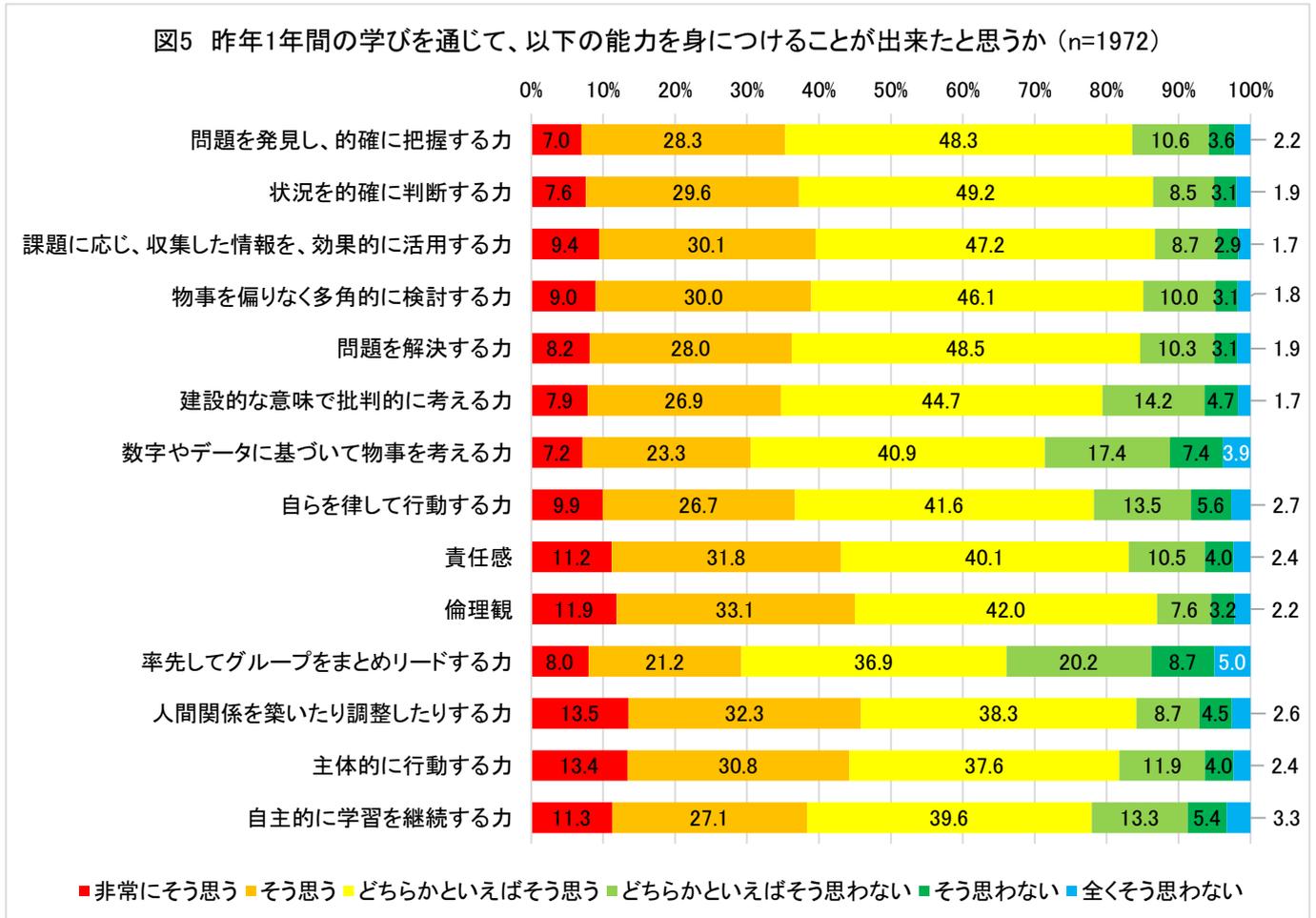


図5に示す14項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「能力総合得点」(M=4.19、SD=.849、最大=6、最小=1、因子分析で次元性も確認。α=.955)として以降の分析で用いた。

能力総合得点を専攻別に見ると（表 11）、最も高い専攻で  $M=4.35$ 、最も低い専攻で  $M=3.78$  であった。効果量は小さく ( $\eta^2=.019$ )、専攻間の差は大きくない。

表 11 専攻別に見た「能力総合得点」

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.17	0.868	181	$\eta^2=.019$
哲学	3.97	0.906	77	
日本文学	4.31	0.813	200	
歴史文化	4.14	0.848	200	
国際関係	4.27	0.822	278	
経済学	4.22	0.723	184	
社会学	4.27	0.799	103	
コミュニティ構想	4.33	0.851	103	
心理学	4.15	0.725	180	
コミュニケーション	4.20	0.820	289	
情報数理	3.78	1.187	68	
数学	4.35	0.877	47	
情報理学	4.01	1.145	62	
合計	4.19	0.849	1972	

能力総合得点を学年別で見ると（表 12）、平均値は 4 年次、3 年次、2 年次の順で高い。効果量は小さく ( $\eta^2=.018$ )、学年間における違いは大きくない。

表 12 学年別に見た「能力総合得点」

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2 年次	4.09	0.846	727	$\eta^2=.018$
3 年次	4.16	0.841	645	
4 年次	4.36	0.836	600	
合計	4.19	0.849	1972	

(4) 身についた技術に関する項目の集計・分析結果

図6は、昨年1年間の学びを通じて身につけることができたと思う技術13項目の分析結果である。「授業の要点を整理してノートにまとめる技術」と「卒業後のキャリアや進路について考える力」以外の項目で、肯定的な回答の割合が8割を超えた。

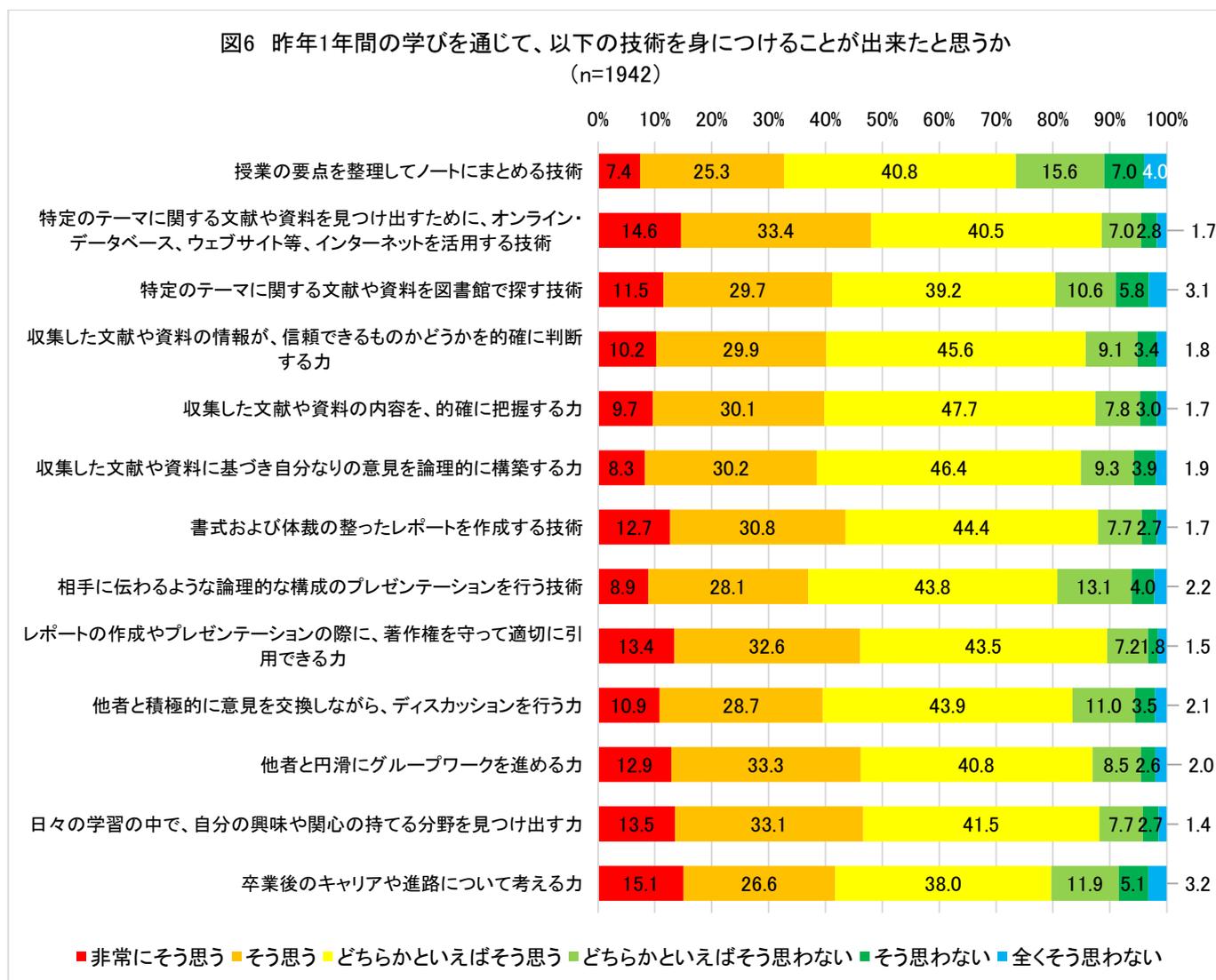


図6に示す13項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「技術総合得点」(M=4.29、SD=.820、最大=6、最小=1、因子分析で次元性も確認。α=.947)として以降の分析で用いた。

技術総合得点を専攻別に見ると（表 13）、最も高い専攻でM=4.50、最も低い専攻でM=3.76であった。効果量は小さく（ $\eta^2=.033$ ）、専攻間の差はさほど大きくないことが分かる。

表 13 専攻別に見た「技術総合得点」

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.30	0.811	176	$\eta^2=.033$
哲学	4.09	0.744	76	
日本文学	4.50	0.795	197	
歴史文化	4.35	0.830	197	
国際関係	4.42	0.805	275	
経済学	4.28	0.683	182	
社会学	4.34	0.762	100	
コミュニティ構想	4.33	0.812	102	
心理学	4.27	0.717	176	
コミュニケーション	4.23	0.816	286	
情報数理	3.76	1.061	67	
数学	4.38	0.935	47	
情報理学	3.97	1.055	61	
合計	4.29	0.820	1942	

技術総合得点を学年別で見ると（表 14）、平均値は4年次、2年次、3年次の順で高い。効果量は小さく（ $\eta^2=.017$ ）、学年間における違いは大きくない。

表 14 学年別に見た「技術総合得点」

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2年次	4.20	0.810	718	$\eta^2=.017$
3年次	4.26	0.821	632	
4年次	4.45	0.811	592	
合計	4.29	0.820	1942	